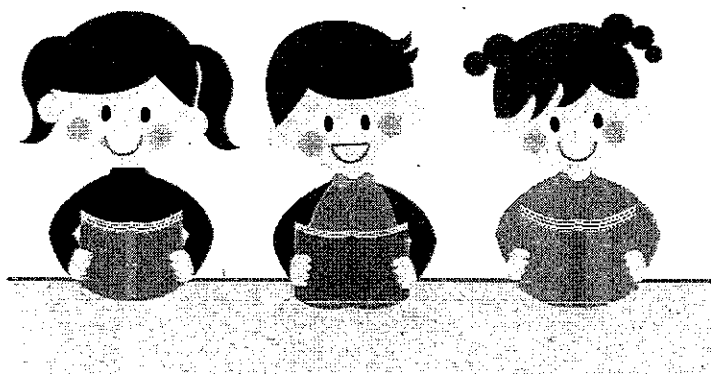


水俣市教育委員会点検・評価報告書

(令和元年度実績)



令和2年12月

水俣市教育委員会

目次

教育委員会の点検・評価について	1
教育委員の活動状況	2
点検・評価の結果について	
安全・安心な学校施設の整備・充実	4
学力向上対策事業（確かな学び・豊かな心・健やかな体を育む学校づくり）	6
いじめ、虐待、不登校児童対策事業（誰もが楽しく学べる教育環境づくり）	8
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	10
人権教育推進事業	12
文化会館自主文化事業	14
図書館創作活動事業	16
公民館自主事業	18
生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進	20

教育委員会の点検・評価について

1 はじめに

水俣市教育委員会では、教育行政を効果的に推進していくこと、また市民への説明責任を果たすことを目的として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとしています。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価は、水俣市教育委員会の権限に属する事務のうち、次に掲げるものを対象としています。

- (1) 水俣市総合計画に掲載された事業
- (2) 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

3 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、点検評価委員2名から意見聴取（外部評価）をしています。

教育委員の活動状況について

1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。令和元年度の開催状況は次のとおりです。

- (1) 教育委員会定例会 12回
- (2) 教育委員会臨時会 3回

2 審議等の件数

(1) 審議事項 72件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	16
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	9
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	8
その他	39

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

(2) 協議事項 28件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

(3) 報告事項 33件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

3 水俣市教育委員名簿

令和2年3月31日現在

職 名	氏 名
委 員 (教育長職務代理者)	平 尾 雅 述
委 員	堀 淨 信
委 員	山 田 誠 次
委 員	本 田 恵 津 子

4 点検・評価の流れ

	流れ	実施者	実施時期	実施内容
①	事業選定	担当各課	4月～5月上旬	点検及び評価の対象事業を選定
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">事業実施</div>				
②	自己評価	担当各課	3月下旬	選定事業について、実施状況評価表を作成
次年度				
③	外部評価	点検評価委員	8月中	実施状況評価表について点検評価委員の意見聴取
④	最終評価	教育委員	9月～10月	点検評価委員の意見を付した実施状況評価表について、総評という形で教育委員より意見を聴取
⑤	とりまとめ	事務局	11月	点検及び評価の結果をとりまとめ、報告書を作成
⑥	提出・公表	教育長	12月	報告書を議会に提出し、HPで公表

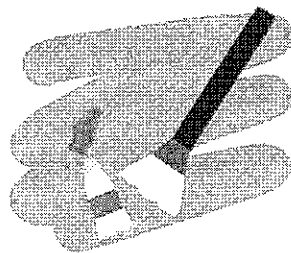
※点検評価委員

- ・教育に関し学識を有する者
 - ・任期は3年
- (委員) 森山 祐一・前嶋 正人

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



政策事業名	1	安全・安心な学校施設の整備・充実
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす場であり、また非常災害時には地域住民を受け入れ、避難生活の拠り所として重要な役割を果たす施設であるため、児童生徒をはじめ、そこに集まる人たちが安心・安全かつ快適に過ごすことができるように学校施設の環境改善（構造体・非構造部材の耐震化、トイレ改修、空調設備設置等）に取り組む。
事業の目的・目標	耐震化については、平成21年度より小中学校施設の耐震化を進めており、平成24年度までに構造体の耐震化、平成27年度までに体育館天井材（非構造部材）の耐震化を完了した。しかし、校舎の内外壁、照明器具といった非構造部材については、耐震対策が万全ではなく、今後も平成25年度に策定した「非構造部材耐震化計画」に基づき、学校施設の安全対策を進めていく。 また、トイレ改修については、怪我や障がいを抱えた児童生徒等が利用しやすいよう順次改修を進めていく。 なお、空調設備設置については、近年の外気温の上昇に伴い、教室内の気温上昇が著しいため、児童生徒の体調管理の面及び学習環境整備の面から本年度中の設置を目指し取り組む。

2【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	令和元年度	備考	
事業費	80,211	463,563		
財源内訳	国庫支出金	21,478		
	県支出金			
	地方債	52,900	463,300	
	その他			
	一般財源	5,833	263	

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
【緑東中学校】 管理・普通教室棟外壁改修	【事業期間】 令和元年9月11日～令和2年1月31日 【事業実績】 設計業務委託料 1,672,000円 ※工事費、工事監理費は翌年度に繰越
【水俣第一小学校】 C棟トイレ改修	【事業期間】 令和元年9月11日～令和2年1月31日 【事業実績】 設計業務委託料 1,727,000円 ※工事費、工事監理費は翌年度に繰越
【全小中学校】 空調設備設置	【事業期間】 令和元年6月5日～令和元年11月22日 【事業実績】 工事監理業務委託料 8,958,400円 工事請負費 451,205,513円

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

【耐震化】 緑東中学校において、設計業務が完了し、来年度の工事に向けた準備が完了した。

【トイレ改修】 水俣第一小学校C棟において、設計業務が完了し、来年度の工事に向けた準備が完了した。

【空調設備設置】 全小中学校において、空調設備設置工事が完了したことで学習環境が改善され、児童生徒の体調管理等の面から安心して学べる環境を整備することができた。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

A

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

市の財政状況が厳しいため、財源となる国の交付金の採択状況によって、事業の進捗に遅れが生じてしまうことが課題であるが、学校施設の特異性（地域住民の応急避難場所としての機能等）を念頭に、常に財政課と協議しながら、事業の前倒しを提案していく。

(2) 今後の方向性

維持	改善	見直し	休止	終了
----	----	-----	----	----

方向性としては維持とし、今後も国の交付金等を活用しながら、計画的に学校施設の環境改善に努めていく。

6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

学校ごとに年次計画の中で、安全な学校施設を目指し整備していく姿勢は良い。学校施設の整備・充実は、児童・生徒へ学習の場を保障する意味で、教育の根幹になるものであり、地域住民の避難場所としての役割も今後ますます高くなると思われる。多額の予算が必要となるが、その重要性から、積極的に投入していただきたい。トイレ改修も進んでいるが、今後はトランスジェンダーの人に対応する配慮が必要となろう。

7 【総評】（教育委員会の最終評価）

多くの資金が必要となるため、生徒数の減少傾向等を踏まえ、中長期的な視野で計画を立て、進めることも大切だと思う。実情に応じた柔軟性も場合によっては必要で、担当課と財政部局、市長の意思の通じた連携がとても重要になると思う。大雨や河川の氾濫に備え、今後の校舎建築においては、敷地のかさ上げも含めた計画、あるいは重要書類保管場所の点検も行っておく必要があるかと思う。希望として、今後は大人数が収容できる学校の体育館の空調設置の計画も検討していただきたい。

政策事業名	2	学力向上対策事業(確かな学び・豊かな心・健やかな体を育む学校づくり)
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業	2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	水俣市の児童生徒の学力向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育3つの努力目標を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めている。児童生徒の学力向上に向けて、教師の資質向上や授業力向上、地域とともにある学校運営をめざし、多角的に目的・目標に迫るよう事業を推進する。
事業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領実施を見据え、昨年度見直しを行った「未来の担い手育成(学力向上)宣言」の具体的実践内容を検討・提案する。 ・全国学力・学習状況調査及び熊本県学力調査を起点とした検証改善サイクルに基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。 ・熊本県学力調査で、各学年の児童生徒の学力が県平均以上となるように、教師の授業力向上を図る。

2【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	令和元年度	備考
事業費	2,196	2,096	事業No. 82922, 82942, 82952
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	2,196	2,096

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
学校教育改革プロジェクト会議授業力向上委員会において、児童生徒の学力を向上させるために授業力を向上させる施策を検討する。	・学校教育改革プロジェクト会議における授業力向上委員会を5回開催し、全国学力・学習状況調査の本市の課題の洗い出しを行い、本市の教職員の授業力向上のために、委員全員の実践事例を掲載した「授業改善実践報告」を作成し、市内小中学校の全ての教員に配付することができた。
教職員の資質指導力を向上させるための水俣市教育セミナー(年1回)、学力向上の成果を公開するみなまた教育フォーラム(年1回)を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・市学力向上推進事業の一環として、教職員の資質・指導力の向上を目指して「教育セミナー」を開催した。次年度から開始される「プログラミング教育」について実践的な講演を行った。 ・「第15回みなまた教育フォーラム」では学校の抱える課題をテーマに講話を実施した。テーマ①学力対策「芦北管内の学力向上に向けて」テーマ②不登校対策「不登校の未然防止及び対応の実践について」。
学力向上研究推進校、図書館活用教育研究推進校、学力向上推進事業実践校を指定し、研究推進と研究成果の発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上研究推進校(湯出小学校)及び図書館活用教育研究推進校(久木野小学校、水俣第一中学校)が研究2年目として、それぞれ研究発表会を開催し、成果等を市内外の学校に普及発信した。 ・学力向上推進事業実践校において、取組及び成果等を学力向上成果発表会として、保護者及び地域住民に情報発信を行った。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由 <ul style="list-style-type: none"> ・県学力調査結果における各教科の領域や観点の項目で県平均を上回ったものは、小学校22.2%、中学校50.0%であった。学年ごとの経年変化による比較では、教科間や学年間に定着率の差がみられた。 ・「教育セミナー」及び「みなまた教育フォーラム」では、重要で喫緊の教育課題に係る内容を提供し、協議や実践をとおして教職員の資質・技能の向上を図ったことにより参加者の満足度が高かった。 ・学校教育改革プロジェクト会議では、教職員の授業力向上のために、委員全員の実践事例を掲載した「授業改善実践報告」を作成し、市内小中学校の全ての教員に配付することができた。 	
(自己評価) A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの C 早急の見直しが必要なもの D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの	自己評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 100px; margin: 0 auto;"> B </div>

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・県学力調査結果における教科間差や学年差を解消するための方策をさらに検討する必要がある。 ・「未来の担い手育成(学力向上)宣言」内容を共有し、「授業改善実践報告」を活用した授業改善等を行うことで市全体としての学力向上を図る必要がある。 ・新学習指導要領、全国的な学校ICTの整備、プログラミング教育等新しい分野に対応する必要がある。 					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上委員会を中心に、教職員の授業力向上のため「授業改善実践報告」等の活用を推進し、授業改善等を図っていく。 ・みなまた教育フォーラム、教育セミナーを、より効果的で実践的な内容に検討・実施する。 ・学力向上研究推進校及び学校図書館活用教育研究推進校の研究を通して成果等を普及させる。 ・新学習指導要領の施行に伴い、教職員の資質及び指導技能を高める研修を実施する。 					

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
「授業改善実践報告」は大変いいものができているので、これが活用されることを望みたい。県学力検査結果については、さらなる成果を期待したい。なお、全国学力学習状況調査に参加しているなら、小6、中3については国平均との比較も大事だと思う。プログラミング教育について、全児童・生徒へタブレット端末が配備できることは良いが、ICTの整備、指導される先生方への研修等について、今後取り組んでほしい。					

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

評価が抽象的で分かりづらいので、何をもって評価し、どんな成果があったのかを明確にすると良い。そこから課題が明確になり、取り組むべき対策が明確になってくると思う。「学力」とは何を指すのか、もう少し明確に示す必要があると思う。目指すべきゴールを明確にした上で独自性を発揮してこそ成果が表れると思う。推進校の指定を受け教師の資質向上を図ってほしい。通常の授業を教師同士が共有する場を設け、自分の授業を見直すきっかけづくりができるといいのではないと思う。

政策事業名	3	いじめ、虐待、不登校児童対策事業（誰もが楽しく学べる教育環境づくり）
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	いじめ、不登校等を中心とした本市の児童生徒の自立を支援することは、重要な課題の一つである。平成27年度から、関係機関とのネットワークである自立支援事業連絡協議会の編成を、従前の不登校対策・いじめ防止・虐待防止の3つの部会に戻し、ネットワークの構築を図っている。同協議会3部会の活性化と情報共有、ネットワークの強化を図り、その取組を各学校及び保護者等へ広く発信していく必要がある。
事業の目的・目標	不登校、いじめ、虐待の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、子ども自立支援室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	令和元年度	備考
事業費	2,715	2,728	事業No.82A82、82B52
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	2,715	2,728

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
水俣市自立支援事業連絡協議会を実施する。（構成員の見直し、具体的な目標提示）	・全体会を6月と2月の2回、各部会を必要に応じて1～3回実施することで、本市の不登校、いじめ、虐待の状況の把握と未然防止や早期発見・早期解決の取組について情報共有し、対策について検討した。
各中学校ブロックいじめ対策委員会を年3回程度実施する。	・各中学校ブロックにおいて、いじめ対策委員会を年3回実施し、情報共有や課題解決に向けた協議を進めることができた。
子ども自立支援室や関係機関と連携しいじめ・不登校・虐待対策等の支援を行う。	・子ども自立支援室において、不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援した。必要に応じて各学校の不登校対策のケース会議に市教育相談員SSWを派遣し、指導助言等の支援を行った。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

- ・水俣市の小中学校が認知したいじめの件数は、昨年から増加したが、学校の積極的認知が進んだためと考えられる。
- ・児童会生徒会リーダー研修会は、全ての小中学校が参加し、児童生徒が中心となり、いじめの未然防止に向け、アクションプランの策定等に取り組むことができた。
- ・水俣市自立支援事業連絡協議会について、全体会を年2回、各部会を必要に応じて実施することで、本市の不登校、いじめ、虐待の状況の把握と未然防止や早期発見・早期解決の取組について情報共有し、対策について検討した。
- ・子ども自立支援室において、不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援した。また、必要に応じて各学校の不登校対策のケース会議に市教育相談員SSWを派遣し、指導助言等の支援を行った。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるような努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

- ・不登校及び不登校傾向児童生徒数は減少傾向にあるが、病気等の理由で長期欠席する児童生徒数が増加した。今後も課題を抱える児童生徒への対応を継続するとともに、減少に向けた方策が必要である。
- ・いじめに関しては事後の対応と共に、いじめを起こさせない未然防止も大切である。教職員の取組と共に、児童会生徒会活動を中心に、子どもたちが主体的となって、楽しい学校づくりを目指すことも必要である。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

- ・不登校児童生徒の解消については、本市の喫緊かつ継続的な課題であり、一人一人の状況に合わせ、今後も丁寧に対応していく必要がある。
- ・今後も引き続き、子ども自立支援室に指導員を配置して不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援する。また、必要に応じて各学校の不登校対策のケース会議に市教育相談員SSWを派遣し、指導助言等の支援を行う。

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

いじめ・不登校については、児童・生徒本人、そして保護者のかかえる悩みははるかに大きいと思う。担任の先生の対応とそれを支えられる組織としての学校の取り組み、そして関係機関のネットワークの構築はとても大切である。教育相談員の配置は良い。可能なら、臨床心理士の専門家がほしい。予算措置を考えてほしい。また、家庭での虐待を把握するのは困難である。地域や関係機関との日頃からの連携が必要となる。

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

自立支援とは何か、どう捉えるべきか意識統一ができているのだろうかと感じる。まず、水俣市はどう考えるのかを確立すべきではないか。いじめ・不登校対策での学校現場の対応には限界があるので、いろいろな機関の協力を得るなどして学校の負担軽減を図ってほしい。学校と家庭・地域との連携が図られるように教育委員会としても日頃から注視し、サポートできる体制を整えていただきたい。水俣市自立支援事業連絡協議会で行っている取組を周知し、啓発につなげるような場があれば良いと思う。

政策事業名	4	給食センターにおける食育・地産地消推進事業
種別	1 水俣市総合計画に掲載された事業 ②教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	食育の推進として、食に関する指導やアレルギー対応食を実施し、また、食育の拠点となるようセンターの視察研修、試食会、センターまつり等を実施する。 地場産食材を使用した給食「芦北・水俣メニュー」、熊本郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」を実施し、生産者と連携した地産地消を推進する。
事業の目的・目標	学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として食育を推進する。 また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った芦北・水俣メニューを実施するなど、地産地消を推進する。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	令和元年度	備考
事業費	87,504	88,381	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	66	62
	一般財源	87,438	88,319

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
食に関する指導	○栄養教諭による食に関する指導(18回) ・園児、児童生徒、保護者等ふれあい給食懇話会(16回) ・給食センター見学受け入れ(7回) ・市制70周年記念市民給食試食会(3回)
給食センターまつり	○第8回センターまつり 7月26日/来場者132人(子ども86・大人46) ・地元生産者の講話 甘夏生産者グループ:甘夏引力「あなたの知らない甘夏の世界」 ・調理現場を使ったクイズラリーや手洗いチェック ・くまモンタイム ・非常食わかめごはんの実演、試食
アレルギー対応食の実施	○食物アレルギーを有する子どもたちにも給食を提供するため、保護者及び学校と連携を取りながら25人の児童生徒に安全性を最優先したアレルギー対応食を提供した。
地元食材の使用	○これまでの納入実績のある地元生産者から年間生産計画を徴し、それに基づいて納入可能な食材を発注。15人から31品目を購入し使用した。 ○地場産食材を使用した毎月9日の「水俣・芦北メニュー」、県内郷土料理を紹介する「ふるさとくまさんデー」、毎月19日の「和食を味わう日」を実施するとともに、使われた地元食材とその生産者を給食だよりで紹介し、生産者のモチベーションアップを図った。

4 【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <p>児童生徒等への食に関する指導については、例年、年40回以上実施していたが、栄養教諭が1学期、1人だけだったため回数を絞らざるを得なかった。</p> <p>旬の食材については、できるだけ地元産を活用するよう地産地消の推進を図ったが、国の第3次食育基本計画の目標値である地場産物の活用割合30%はクリアしているものの、本市の環境基本計画の中の「給食畑の推進」で目標としている使用食材40品目には及ばなかった。</p>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるような努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

5 【事業の課題、今後の方向性】

<p>(1) 課題</p> <p>○児童生徒への食に関する指導は、学校の要請に応じて行うため、回数等の目標が立てにくい。</p> <p>○地場産物及び生産者に関する情報が十分ではないため、40品目使用という目標値を達成することが困難である。</p>					
<p>(2) 今後の方向性</p>	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>○学校との調整を十分に行い、学校給食が活かされる食育指導を行っていく。</p> <p>○地産地消推進に向けて農水等担当部署と連携を取りながら使用品目の拡大を図っていく。</p>					

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

<p>点検評価委員</p>	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>地場産食材を使用した「芦北・水俣メニュー」、熊本郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」など生産者と連携した地産地消の推進はすばらしい。給食センターまつりでの「非常食の実演・試食」の試みも災害のための準備としても価値がある。地産地消の実践は大変だと思われるが、市役所内部の連携や、地域との交流等で情報を収集し、40品目使用という目標に近づくように努力してほしい。</p>					

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

<p>地元の新鮮な食材を知る・食べることは大切なことであり、今後も他部署と連携し、地産地消を推進してほしい。残菜量については学校で差があるように思える。将来にわたる健康づくりのためにも食育の大切さを児童・生徒、保護者へ伝えてほしい。栄養等の「データ」のやり取りだけでなく、例えば献立表に「栄養士のこだわり」のような気持ちを伝えるメッセージを添える等、気持ちの通じる情報のやりとりができれば、携わっている方の「人格」が感じられ、自分たちを支えてもらっていることを「実感」としてより感じるようになるのではないかと思う。</p>

令和元年度 教育委員会重要政策事業実施状況評価表 (生涯学習課 社会教育推進係)

政策事業名	5	人権教育推進事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	地域住民の人権問題に対する理解と認識を深め、あらゆる差別の解消を目指すための事業を実施する。
事業の目的・目標	幅広い年齢層を対象とした参加体験型学習、現地学習等を実施し、参加者の身近な人権への気づきを促し、偏見や差別の解消への行動の芽生えを目指す。

2 【投入経費】

(千円)

年 度		前年度	令和元年度	備考
事業費		4, 299	2, 073	B30は県人教大関係経費増
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金	840	700	12か月分→10か月分
	地方債			
	その他	5	4	雇用保険個人負担分
	一般財源	3, 454	1, 369	

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
ヒューマンライツ・セミナーの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生コースについては、8月に開講式、南阿蘇村宿泊交流学習、菊池恵楓園訪問学習、10月に水俣現地学習交流会、11月に報告会及び閉講式を実施した。市内全中学校から9名の参加があった。 ・一般コースは8月の菊池恵楓園訪問を中学生のセミナーに同行する形で行い、市職員など5名の参加があった。
水俣・芦北地区人権教育研究大会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回大会が8月に芦北町地域活性化センターで開催され、芦北町教育委員会を事務局とする実行委員会が中心となり開催することができた。管内ではあるが水俣市からは遠い旧田浦町の会場であったが、市内からの参加者が約160名、全体で約300名の参加があった。 ・全体会と第1分科会で子ども・障がい者の人権、第2分科会で水俣病をめぐる人権、第3分科会で参加体験型人権学習を実施した。
新規採用職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、4月の研修期間中に地域人権教育指導員が不在の状態であったため、生涯学習課長が講師となり、人権教育を行った。平成31年度新規採用職員5名に対し、1時間の研修を実施した。 ・研修内容は、熊本県で発行している人権研修テキストなどを活用し、「様々な人権」、「ハラスメントの種類」、「表現による人権感覚」などを学習した。

4 【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンライツ・セミナー（中学生コース）では、同和問題、ハンセン病、水俣病を中心に学び、報告会では「学んだことを周囲に伝えたい」、「今後の生活に活かしたい」など前向きな意見を聞くことができ、人権意識の高揚につながった。 ・ヒューマンライツ・セミナー（一般コース）は、菊池恵楓園訪問学習の1回しか実施できなかったが、初めてハンセン病をめぐる人権問題に触れた参加者もいて、人権啓発の良い機会となった。 ・水俣・芦北地区人権教育研究大会では、一昨年の津奈木町（昨年は県人教大会）であった大会より参加者が増えていた。講演のテーマによるものかもしれないが、多くの人が人権を考えるきっかけになったと思う。 	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

5 【事業の課題、今後の方向性】

<p>(1) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進はなかなか目に見えるものではないが、継続して事業を実施していくことで、できるだけ多くの人に人権について考える機会を増やすことで、少しずつではあるが推進できると思う。 ・水俣・芦北地区人権教育推進協議会の事務局を令和2・3年度は水俣市が担当することになり、研究大会も水俣市で開催される。大会参加者数を増やしたい反面、会場や駐車場の確保など難しい点もあり、周囲に協力依頼しながら早めの準備を心掛けた。また、事務局として熊本県人権教育推進協議会の会議・研修等の参加も増えるため、他業務との調整が必要となる。 					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度当初は地域人権教育指導員が不在で（令和元年6月1日付けで委嘱）、新しい指導員が、これまで人権教育に関する経験者ではないため、今年度は指導員自身が人権教育について学習する年度とした。そのため、ヒューマンライツ・セミナー（一般コース）の一部や、事業所・団体向けの出前講座を休止することとなったが、新年度は、積極的な事業展開を目指す。 ・ヒューマンライツ・セミナー（中学生コース）は、年々、参加者確保が難しくなっているが、中学校にも協力をお願いしながら、事業を継続する。 					

6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>ヒューマンライツ・セミナー（中学生コース）については、市内4中学校へ参加要請人数を割り当てたほうが良いと思う。また、年間計画を示すなどして、各セミナーを独立させて参加を募る方法も良いのではないかと。個別事例を学び、その成果を普遍化することを期待したい。新規採用職員研修では、水俣へ転入してきた教職員も含めて水俣病をめぐる人権研修をしてほしい。</p>					

7 【総評】（教育委員会の最終評価）

<p>中学生の時期にヒューマンライツ・セミナー研修に参加するのは、人権を考えるうえでとても大切なことであり、中学校の要望等を聞いて多くの中学生が参加できる体制を作ってほしい。また、各学校で発表する機会を作ってほしい。生徒が自ら「私も参加したい!」と思える様な周知、啓発を行ってほしい。また、LGBTなどについて取り上げる等、毎年同じテーマでなくても良いと思う。ヒューマンライツ・セミナーについては無闇に規模を拡大せず、現状の規模で実効性のある事業にして頂きたい。そしてフォローアップも含め長く継続することにより市民の人権意識の底上げにつなげてほしい。</p>

政策事業名	6	文化会館自主文化事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	文化会館における公演の実施 芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。 一般公演…様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、1～2本の上演を行う。
事業の目的・目標	生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	令和元年度	備考
事業費	5,736	5,324	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	3,046	3,997
	一般財源	2,690	1,327

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
宝くじ文化公演 「大野雄二&ルパンティックシックス～Lupintic Jazz Live～」	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年9月22日(日)開催 ・会 場：水俣市文化会館 ・入場料：前売券2,000円(一般)1,000円(高校生以下) 当日券は、500円増 ・入場券販売率：100% ・入場者総数：794人(入場率93.4%) ・販売率、入場率ともに想定の80%を上回った。
中学校芸術劇場 「生きる！～十五少年漂流記より～」	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年12月19日(木)開催 ・会 場：水俣市文化会館 ・鑑賞対象者：市内中学校全生徒 ・一部負担金：400円/人 ・鑑賞児童総数：629人(引率含む)
こころの劇場 「はだかの王様」	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年2月3日(月)開催 ・会 場：水俣市文化会館 ・鑑賞対象者：市内小学校児童 ・一部負担金：なし ・鑑賞児童総数：約850人(引率含む)
「中国雑技～芸術の祭典～」	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年2月24日(月・休)【中止】 ・会 場：水俣市文化会館 ・入場料：前売券1,000円(当日券は、500円増) ・入場券販売枚数：681枚 ・払戻対応枚数：665枚(4/30現在)

4【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <p>生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供できた。理由としては、宝くじ文化公演の活用と企業協賛金による劇団四季の公演共催により、歳出を抑えながら質の高い内容の提供ができたため。</p>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>

5【事業の課題、今後の方向性】

<p>(1) 課題</p> <p>学校芸術劇場の演目選定について、次世代を担う子どもたちに対して、会館へ足を運び、文化芸術に触れることの楽しさを感じてもらえるよう、また、豊かな心や感性を刺激し育てていくようなものを今後も心掛ける必要がある。</p> <p>一般公演については、集客率や知名度等で公演を選定してしまうと、ジャンルに偏りや公演委託料が高くなるなどの弊害があるが、限られた予算の中で事業効果を高めるために、助成や補助金の活用や、効果的な広報活動など工夫し、多くの市民へ幅広いジャンル・質の高い文化芸術を提供する必要がある。また、近年公演内容が一般向けのもが多く、ファミリー向けのもが提供できていない。</p>					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>次世代を担う子どもたちに対しても、豊かな心や感性を刺激し育てていくような演目の選定、鑑賞の機会を提供し続けていく。</p> <p>市民の関心が高いジャンルや時流に応じた演目を選定することで市民の教養を高め、文化の向上を図っていく。また、助成や補助金に対して積極的に活用を行い、広報活動を効果的に行うことで集客率を高めより多くの市民が気軽に文化芸術を鑑賞できるように取り組む。</p> <p>一般向けの内容だけでなく、ファミリー向けの内容を提供し、より多くの市民への利用促進につながるような演目の提供を行っていく。</p>					

6【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>小中学生対象の芸術劇場は、学校では体験できないことであり、内容選定や予算等も含め、今後も工夫して実施していただきたい。一般公演でも、水俣在住では本物の文化・芸術に触れる機会が少ないので、多くの市民が鑑賞できるような質の高い一般公演を提供してほしい。自主文化事業を継続するためにも国や県の補助金を活用したり、文化庁が行っている事業等に申し込むなど試みてほしい。</p>					

7【総評】(教育委員会の最終評価)

<p>市民に舞台芸術を毎年提供する事業は、大切であり必要と考える。今後も主催、共催を含め多種多様で親しみやすく観たい聴きたいと思うような文化芸術の事業を行ってほしい。広報方法についても広く市民に行き届く工夫もお願いしたい。事業についての「内容」だけでなく担当者の「思い」を伝える、また市民からのリクエストを募り、推薦者の「ここがオシ！」的なコメントで知らせるなども良いと思う。歴史もあり立派な施設であるため、利用者を増やし、稼働率を上げるための取組が望まれる。</p>
--

政策事業名	7	図書館創作活動事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	1 創作童話ワークショップの開催 2 みなまた創作童話大賞の開催 3 絵本の読み方ワークショップの開催
事業の目的・目標	創作童話ワークショップ等の事業を通じて、市民が豊かな想像力や表現力の技術を身に付け向上させるために実施する。

2 【投入経費】

(千円)

年 度		前年度	令和元年度	備考
事業費		798	709	
財源内訳	国庫支出金	0	0	
	県支出金	0	0	
	地方債	0	0	
	その他	0	0	
	一般財源	798	709	

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績 (回数等)
創作童話ワークショップ	開催日：7月下旬 ①24日 ②25日午前 ③26日午前 ④27日 ⑤29日午前 ⑥29日午後 場 所：水俣環境アカデミア①③④ 袋小② 水東小⑤ 葛彩館⑥ 参加数：84人 講 師：本木 洋子 (作家)
みなまた創作童話大賞	募集期間 令和元年8月16日(金)～10月31日(木) 応募資格 市内在住(在学・在勤を含む)の小学生・中学生・一般 応募作品数 小学生部門 創作童話17作品、詩64作品 中学生・一般部門 創作童話12作品、詩11作品、エッセイ5作品 表彰式 日時：令和2年2月1日(土)10:00～ 場所：水俣環境アカデミア 審査員 本木 洋子氏 (作家)
絵本の読み方 ワークショップ	開催日：令和2年3月7日(土)13:30～ 場 所：市こどもセンター 対象者：一般(おもに乳幼児を持つ保護者・こども園、保育園関係者など) 講 師：前園 敦子氏(子どもの本専門店エルマー代表) ※上記のとおり開催を予定していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

創作童話ワークショップは、計 84 名が文章作りにはげみ、特に中高生・一般部門では世代間の垣根を越えた交流ができた。中高生からは、「親とは違う大人の考えをいろいろ聞け、勉強になった。」大人からは、「中高生のみずみずしい感性が新鮮だった。」と双方とも好評だった。また、子ども創作童話大賞は、今年度から高校生、一般の方を加え、みなまた創作童話大賞と名称を変更し、詩と創作童話、エッセイ（小学生は除く）を募集した。計 109 作品の応募があり、表彰式参加者や各学校に応募作品集を配布することができた。両事業を通じて市民が豊かな創造力や表現力を身に着け、創作する機会を提供できた。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

- ・創作童話ワークショップは、楽しみながら感性を高めるような開催内容の工夫が必要と感じる。
- ・参加者や応募者が少ないのが課題である。特に中高生層は、勉強や部活で忙しく、また学校に文芸部もなく呼び込みが困難。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

来年度も引き続き各事業を実施していきたい。文章を書くことが好きな方の掘り起こしと、中高生へのアプローチを考え、一般の参加者を増やしていく。

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

創作童話ワークショップは参加者 84 人で、盛況だと思う。講師の本木先生の手もあると思うが、協力して下さる作家の先生が複数おられると、また違った切り口で取り組めるのではないかと。みなまた創作童話大賞の応募については、市内在住（在学・在勤を含む）者に限定している中では健闘していると考えられる。絵本の読み方ワークショップは未来を担う子どもの育成につながるもので今後も継続してほしい。

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

予算規模に対しては充実していると思う。文化的な事業はすぐに目に見えて何か効果が上がる、というものではないので、地道に長い時間を見て続けて欲しい。みなまた創作童話大賞の提出された作品については入賞作品だけでなくすべての作品を学校等に配付しているので、その資料を使って、学校での読み聞かせや昼食時の放送を活用するなど作品の活用を図り読書活動を推進し、底辺拡大を図ってほしい。大賞、優秀賞、佳作以外に賞を増やしたり、大賞には水俣高校生などに依頼して作品集を作る際に作画してもらおう、などの工夫も良いと思う。

政策事業名	8	公民館自主事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1. 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	市民ニーズに合った多種多様な学習機会を市民に提供し、生涯学習活動の活性化を図るため、市公民館において、各種公民館自主事業を開催する。
事業の目的・目標	公民館自主事業（市民教室、いきいき教室、子ども教室、生涯学習フェスティバル）を実施し、市民に広く学びの機会を提供し、それぞれに興味のある事に取り組んでいただき、生きがいを持った、豊かな人生を送っていただけるよう支援する。

2. 【投入経費】

(千円)

年 度		前年度	令和元年度	備考
事業費		2,019	1,897	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	783	778	
	一般財源	1,236	1,119	

3. 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
市民教室	<ul style="list-style-type: none"> 市民教室：21教室（料理、フラダンス、朗読、いけ花、パソコン、クラフト手芸、スポーツ吹矢、ハーモニカ、書道、3B体操、くらしに役立つデッサン、健康太極拳、セットダンス等） 期間：令和元年6月から2年2月までの期間内で18回以内 受講者数：期間中延べ3,568人
いきいき教室	<ul style="list-style-type: none"> 簡単 ゼロから分かるスマートフォン活用講座 令和元年8月31日開催 参加者39名 みなまたの歴史シリーズ 「江戸時代の農業①～水俣の特産物・農村生活の様子～」 令和元年10月26日開催 参加者15名 みなまたの歴史シリーズ 「江戸時代の農業②～水俣のからいもとみかん栽培～」 令和元年11月28日開催 参加者23名
子ども教室	<ul style="list-style-type: none"> 子ども教室 日 程：令和元年7月31日開催 会 場：水俣市公民館本館2階ホール テーマ：やさしお金のはなし～お金の上手な使い方～ 参加者：水俣第一小学校学童、袋小学校学童、その他児童等 計109名
生涯学習フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年3月14日（土）、15日（日）開催の予定で準備していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

4 【事業の成果】

事業の達成度とその理由

- ・「市民教室」は、21教室開講し市民教室の期間を通じ受講者数は延べ3,568人であり、平成30年度は延べ3,540人、平成29年度は延べ3,037人と年々増加し、より多くの市民に学習の機会を提供できた。「市民教室」の周知も兼ねて受講者の二次募集を行なっていることも増員の要因のひとつであると考えられる。
- ・「いきいき教室」は、平成30年度が3回開催で延べ84名、令和元年度が3回開催で延べ77名の参加者があった。
- ・「子ども教室」は、参加者が109名、平成30年度が125名、平成29年度が78名、平成28年度が109名であり、年々100名程度で推移している。
- ・「市民教室」の受講生等の発表の場として毎年開催していた「生涯学習フェスティバル」は、3月14日、15日開催予定で準備をしていたが、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため中止となった。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

- ・「市民教室」において受講者は増加しているが「市民教室」の開講日や時間帯が平日の昼間に集中していることから、平日の昼間に働いている市民が受講できない。また、受講者は60歳以上の女性が多く、男性や若者が少ない。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

- ・市民教室の講師と土、日曜日に開催できないか引き続き協議すると共に、新たに土・日曜日に開講できる市民教室を模索する。また、男性や若者にも興味がある市民教室を模索する。

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

市民教室の受講者数は、二次募集を行うなどの効果が出ていると思う。単独年での、飛び込みの参加がしやすい事業もあればもっと良い。いきいき教室は、参加者の意見要望や、取り上げてほしい内容についての希望を調査されるなどして、充実したものにしていきたい。子ども教室は、毎年異なるテーマであり良く考えが練ってある。プログラミングなどを取り上げると人気があるのではないか。

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

市民のニーズと呼応しながら事業を展開するのは難しい面もあると思うが、生涯教育の重要な受け皿であるので、今後も意欲的に取り組んで頂きたい。長年行っている教室で、参加者が減少している教室は内容を変える等、時代のニーズに合った内容を提供することも必要だと思う。今後も曜日や時間帯を考慮して市民が参加しやすい体制づくりをお願いしたい。市民が集まる場としての環境が構築されているため、さらに発展して、ボランティアを募り、子どもたちへの学習塾、寺子屋、居場所づくりが実現できれば、世代間交流も行われ、市民同士の共助の環境ができると思う。

令和元年度 教育委員会重要政策事業実施状況評価表 (スポーツ振興課 スポーツ振興係)

政策事業名	9	生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ三大イベント（競り舟、市民体育祭、市民駅伝）を市民に親しまれる大会として実施する。 ・子どもたちの健全育成にキッズサポーター基金を活用し、併せて日本体育大学との体育・スポーツ振興に関する協定に基づき、トップアスリートを誘致することにより、子供たちが一流選手と親しむことで、スポーツを通じた青少年育成を図る。 ・市民からの要望が最も多い体育施設整備等についても、計画的な環境整備の実施に向け、取り組む。
事業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三大イベント（競り舟、市民体育祭、市民駅伝）を市制70周年記念イベントに位置付け、大会成功のため市民の意見を取り入れるため、実行委員会形式で大会運営を行う。 ・キッズスポーツクラブ活動奨励金交付と交流会を実施する。 ・日本体育大学と体育・スポーツ振興に関する協定に基づき、トップアスリート誘致事業を実施する。 ・長寿命化計画（個別計画）策定のため準備作業を実施する。 ・大会出場奨励金を活用する。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	令和元年度	備考
事業費	45,034	70,861	
財源内訳	国庫支出金	1,430	
	県支出金		
	地方債	2,800	
	その他	17,066	11,614
	一般財源	27,968	55,017

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
市制70周年記念となる三大イベントに新たな取組を実施	みなまた競り舟大会では、初の取組として優勝チームへの賞金贈呈とキッズレースを実施した。市民スポーツ祭りは、これまでの屋外（エコパーク）開催から屋内（総合体育館）開催に大幅に変更し、天候にも左右されず市民が参加しやすい大会となった。市民駅伝競走大会は、雨天でも開催できるようコース変更を行ったが、新型コロナウィルスの影響で中止となった。
キッズサポーター基金の有効活用及び寄付者との交流会開催	令和元年6月2日に水俣市キッズスポーツクラブ登録団体奨励金交付式と交流会を実施し、子どもたちや指導者と寄附をいただいた方々との交流懇親を図った。 寄附額は、ふるさと納税も含めると500万円余りとなり、登録団体奨励金に加えて139名の子どもたちに約200万円の大会出場奨励金を交付した。
日本体育大学との連携協定に基づくトップアスリート誘致事業	令和元年10月5日（土）にアテネオリンピック銅メダリストで、現在も東京スイミングセンターで水泳の普及活動をされている中村礼子さんの水泳教室を開催し、市内小中学生52名がトップアスリートから直接指導を受けた。 今後、子どもたちが日本体育大学に出向き、整った施設環境の中で一流のスポーツ指導を受けることも計画している。
長寿命化計画（個別計画）策定のため、先進地視察及び基礎資料作成	長寿命化計画（個別計画）を既に策定している玉名市を視察し、計画策定の根拠となる基礎資料作成が最も大切であることを学び、今後の体育施設の長寿命化計画策定に大いに参考になった。本年度は基礎資料として、体育施設の工事及び修繕等の一覧の作成に着手し、来年度に計画策定を完了する。
総合体育館温水プール特定天井改修工事設計業務	耐震化に向けた工事として、総合体育館温水プール特定天井改修工事の設計を社会資本整備交付金を活用して行った。次年度は、設計に基づいて工事に着手する予定。

4【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

- ・スポーツ三大イベントは、市制70周年の記念大会として、各実行委員会で市民の意見を取り入れ、様々な特別企画を実施した。
- ・キッズスポーツクラブに活動奨励金を交付し、小学校運動部活動から社会体育活動へスムーズな移行を行った。また、子どもたちや指導者と寄附者の交流も実施し、キッズサポーター基金で計画した事業をすべて実施した。
- ・日体大との連携協定に基づいて実施した中村礼子さんの水泳教室は、子どもたちの貴重な体験となった。
- ・長寿命化計画（個別計画）策定に着手した。
- ・来年度実施予定の総合体育館温水プール特定天井改修工事の設計を行った。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるような努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5【事業の課題・今後の方向性】

(1) 課題

- ・スポーツ三大イベントに市民意見を反映させるため、実行委員会形式での運営を継続する必要がある。
- ・キッズサポーター基金事業を継続するため、寄附金を集めていかなければならない。
- ・日体大との協定に基づいたトップアスリート誘致事業における講師の選定に時間と経費を要する。
- ・体育施設の長寿命化計画（個別施設計画）を来年度までに策定しなければならない。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

- ・スポーツ三大イベントは、今後も継続して市民の意見を取り入れた大会とするため、実行委員会形式の大会運営を行う。
- ・キッズサポーター基金への寄附にふるさと納税を活用する。
- ・日体大との連携を密にして、早めに講師を選定する。また、今後は子どもたちの日体大への派遣事業にも取り組む。
- ・体育施設の長寿命化計画（個別施設計画）は来年度策定を完了する。

6【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

スポーツ三大イベントでは新しい試みや市民の意見を取り入れる実行委員会方式など意欲的である。小学校部活動の社会体育活動への移行は、課題や効果を分析され、今後の活動に生かしてほしい。トップアスリート誘致事業について、子どもたちのニーズ、講師の選定、経費等今後も努力され、取り組んでほしい。体育施設の長寿命化計画は来年度で一つの節目のようであるが、将来に向けて常に配慮すべきことであり、市民が安全に活動できるための投資であり必要不可欠である。

7【総評】(教育委員会の最終評価)

心身ともに健康な体力維持のために生涯にわたるスポーツの推進や継続がとても大切なので、子どもから大人まで気軽に参加できる事業、多くの市民が継続的に参加できる事業を今後もお願いしたい。キッズサポーター基金への寄付にふるさと納税を活用するのは良い案だが、地元企業への声掛けも継続し、地元から応援する形も定着できるように取り組み続けてほしい。また、種目競技団体の運営の世代交代などに課題があるのではないかと。

